基幹探究Ⅰ　国語　「羅生門」を読み解く②

「羅生門」　　H　番　氏名

目標

叙述に基づいて下人の心情変化とその理由を理解する。
登場人物の論理を整理する。
叙述の特徴と効果をつかむ。

課題（1）第二場面

下人について、「ある強い感情」を感じてから第二場面の終わりに至るまでの状態や心情を、「共感図」（別紙）を作製しながら捉えよう。作製は、グループで分担しながら、次の条件を満たすように進めていこう。

①下人の心理状態（感じていることや考えていること）を、本文中からできるだけたくさん見つけ出し、順序立てて整理する。

②（a）下人がしていること、（b）下人が見ているものについては、本文の描写をふまえて具体的にまとめる。

③下人が感じている身体感覚は本文の叙述をもとに想像しながらまとめる。

課題（2）第三場面

・老婆の論理を整理する。

①死者を冒涜（ぼうとく）することは悪である。

②しかし、ここにいる死人どもは［A］である。

③たとえばこの女も、［B］。

④この女のしたことが悪いとは思わない。なぜなら、［C］だからである。

⑤だからこの女は、［D］だろう。

A	B	C	D

・老婆の論理を三十字以内で二点にまとめよう。

課題（3）第三場面

下人の論理を整理する。

課題（4）第四場面

叙述の特徴とその効果を理解する

「下人の行方は、誰も知らない。」

1．下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ、強盗を働きに急ぎつゝあつた。（初出『帝国文学』一九一五・一一）

2．下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ、強盗を働きに急いでゐた。（作品集『羅生門』一九一七・五）

3．下人の行方は、誰も知らない。（作品集『鼻』一九一八・七）

問①　1，2と3の違い

問②　3に変わることによる効果